

今、この人に **インタビュー**

「Health(健康)はWealth(財産)！」英語で楽しく教えるフィットネスインストラクター

マーク ミラー さん

日本でも、トロントのような多文化社会になりつつあり、この潮流が続いていくことを願っています。多文化はお互いのことを理解し認め合える機会となるからです。



■ALT(外国語指導助手)として日本に来られたということですが、日本を選択されたのはなぜですか？

私の出身はカナダのトロントで、世界一の多文化社会といわれる都市です。その中で育ちましたが、日本文化に興味を持っていました。大学では主専攻の健康科学以外に、追加コースとして日本の歴史と日本文学についても学びました。源氏物語も読みましたよ。来日後、当初は2、3年の滞在のつもりでしたが、日本での生活が楽しく、日本文化が更に好きになりました。私はブレイクダンサーでもあったのですが、日本にいるダンサーたちと一緒に楽しむことも心地よかったですね。その後、日本人のガールフレンドができ、結婚して子どもも生まれ、今に至ります。

■現在は栗東市にお住まいですが、滋賀での暮らしはどうですか？故郷のトロントとの違いは感じますか？

滋賀だけに限りませんが、日本にいる人はほとんどが日本人ですよ。トロントは多文化社会なので、色々な国籍の人がいます。そこが大きな違いです。滋賀での暮らしはスローペースで静かで大好きです。トロントは大都会なので生活のペースが早いです。関西でも京都や大阪、神戸はトロントに近い環境だと感じますね。滋賀に来た頃はまだ若く、スローなペースは退屈だと思っていましたが、年齢を重ねると滋賀の自然やこのゆっくりしたペースに価値を見出せるようになりました。これこそが人を健康にする要因ですね。滋賀が健康長寿県なのは、このよ

うな生活と自然環境がすごく大事な要素なのだと思います。コロナ禍では、特に自然と共に過ごす重要性を感じました。

■マークさんは英会話の先生だけでなく、フィットネスインストラクターもされていますが、健康科学を学ぼうとしたのはなぜですか？

健康は人にとって一番大切なものです。どれだけお金持ちでも、健康でなければ人生は有意義なものにはなりません。Health(健康)はWealth(財産)だと思います。健康であれば、英語をもっと勉強しよう、他の言語を勉強しようといったすべての活動のモチベーションにつながります。何をやるにしても、身体を健康に保つことが重要です。

■英会話を教えておられるマークさんは日本人の英語力をどのように感じていますか？

日本人は英会話ができていると思います。ただ、みんな自信が持てないだけです。その原因はアウトプットする機会がなかなかないということですね。アウトプットするには実践の機会が必要です。例えば、車も運転しなければうまくなりません。私が英会話講師としてアドバイスしているのは「間違っても大丈夫、パーフェクトなんてありません。とにかくアウトプットして話しましょう」と伝えています。加えて、未就学といった小さい頃から英語に慣れ親しむことも効果的だと思います。

■日本では外国の方との突然の会話に躊躇する人も多いかと思いますが、英会話を教える中でどのようなことを意識していますか？

3つの点を意識しています。1つ目は、生徒が聞き取りやすいようにゆっくり話すことです。2つ目は、生徒がリラックスして緊張しない雰囲気を作ることです。もし間違いがあっても、「大丈夫!」と声を掛けます。緊張している状態では、インプットもましてアウトプットすることなどできません。そして3つ目は、質問ができるようにすることです。質問は、コミュニケーションには絶対必要です。文法が気になつてなかなか質問できない人もいますが、「単

▲琵琶湖や山々の風景、家族の写真をInstagramにアップしていますが、それを見たトロントの友人が、リラックスしてパケーションを過ごせるような滋賀の風景や生活が羨ましいと言ってくれます。

●プロフィール●

カナダ トロント出身。カナダの大学を卒業後、13年前にALTとして来日。京都、鎌倉での生活を経て、9年前に滋賀に来県。大学でHealth Science(健康科学)を専攻していたこともあり、英語で教えるフィットネスインストラクターとして野洲市国際協会(YIFA)の金曜英語サロン講師を担当。また、企業向けの英会話講師を行う一方で、昨年からはヘッドマッサージ事業をスタートさせるなど、多忙な毎日を送っている。

語を並べるだけでも通じるから大丈夫!」と私はアドバイスしています。ネイティブスピーカーが日本人の英語を聞いたとき、「英語が下手だ」とか「何点だ」と採点することは絶対にありません。少しでも話せれば、「日本語に加えて英語も話せる。すごいな!」と思ってもらえますよ。人生はTOEICのようなテストで決まるものではありませんからね。もっと気楽にやってみましょう。

■最後に、マークさんの今後の抱負や目標、そして多文化社会の視点から見た滋賀や日本へのメッセージをお願いします。

まず、昨年からは始めたヘッドマッサージの事業をビジネスとして成長させたいというのが、現時点での次の目標ですね。多文化社会と言う点では、滋賀県で生活していても、毎日のように外国人を見かけます。滋賀県でも外国人住民が増え、多文化である環境が日常が増えてきていると感じています。この傾向が、これからも続いていくことを願っています。なぜなら、多文化である社会は、お互いのことを理解する機会や相手を認める機会を与えてくれる社会だからです。

インタビュー通訳協力

小崎 賀津子さん/SIAボランティア



▲「完璧な文でなくても大丈夫。単語だけでもいいからまずはアウトプットしてみよう」と英語で楽しくフィットネスクラスを指導するマークさん